

修学旅行で白石の魅力をPR！

小原中学校修学旅行

6月29日から7月1日まで、小原中学校3年生7人が修学旅行で訪れた姉妹都市である神奈川県海老名市の海老名中学校と、東京都内のアンテナショップ「宮城ふるさとプラザ」で本市の特産品や観光名所をPRしました。

生徒たちは、1月から市内の魅力を調べて準備。当日は、手作りのパネルを使って、白石温麺の食べ方や白石和紙の歴史を説明したり、観光名所の宮城蔵王キツネ村と材木岩公園のおすすめポイントなどを紹介したりしました。また、海老名中学校の生徒からも自分たちの地域の良さを紹介するなど互いに交流し、姉妹都市間の友情を深めました。

生徒たちは「海老名中学校での交流は、お互いのまちの魅力に触れることができ、絆が深まったと思います。自分の住んでいる地域を調べることで、魅力に改めて気付くことができました」と笑顔で話してくれました。



1_海老名中学校の生徒たちの前で白石の魅力をPRする小原中学校の生徒 2_宮城ふるさとプラザでのPR活動。たくさんの方が足を止めて話を聞いてくれました

身近な自然に多くの生物たち

斎川地区「水生生物観察会」

8月6日、斎川地区で「水生生物観察会」が行われました。この催しは、白石第二小学校放課後子ども教室として開催しているものです。

この日は、児童や保護者など40人が参加し、バスで区内にある鹿の子沼へ移動しハスを観察。その後、沼の近くを流れる小川に網を持って入り、川の底からいろいろな生き物を捕まえました。網には、サワガニ、エビ、アメンボがかかったほか、斎川地区で昔から子どもの疳に効くと言われているヘビトンボの幼虫である「孫太郎虫」も確認できました。児童たちは、お互いに採取した生物を見せ合ったり、地元の人説明を聞いたりしながら熱心に観察し、最後は川に戻しました。

参加した児童は「足がずぶぬれになったけど魚も捕まえて楽しかった。孫太郎虫も初めて見ることができました」と笑顔で話してくれました。



1_鹿の子沼に住む生き物やハスについて説明を受ける児童たち 2_川底にある石を動かすと出てくる生き物たちに興味津々、孫太郎虫も取れました！

ささえあいの輪

こども食堂「さんまのWa」

7月24日、大鷹沢公民館で「さんまのWa」主催によるこども食堂が開催されました。同団体はこども食堂を実施するため昨年度設立。食事の提供のみならずあそびの場や学童用品のリサイクルコーナーなどを設置し、誰もが気軽に利用できるように開催しています。

この日は、地元企業が提供したうーめんや野菜をふんだんに使った料理のほか、特別企画として、手笛奏者のなかしま拓さんらによる演奏会などが行われました。



▲手笛のふくよかな音色が会場内を包み込みました

白石音頭たのしいね

園児が「白石音頭」を継承

白石はるかぜ保育園では、白石夏まつりで長年親しまれている「白石音頭」を園児たちに継承しようと、6月から白石地区更生保護女性会を講師に練習を重ねてきました。

7月28日、同園で行われた夏まつりは園児が作ったうちわを手に講師と園児93人が参加。園庭で大きな輪を作り軽快な音楽に合わせて元気に踊りました。参加した園児は「先生や友だちと丸くなって踊ったのが楽しかった」と元気に話してくれました。



▲めんこいこけしの故郷よ〜の音楽あわせて踊る園児ら

スポーツを通して交流！

登別・白石姉妹都市少年スポーツ交流事業少年野球大会

7月30日、姉妹都市である北海道登別市と本市の少年野球選抜チームが益岡公園野球場で交流試合を行いました。この姉妹都市交流は、1年おきにお互いの市を訪問し、野球、サッカー、武道での少年スポーツ交流を通して両市の発展に寄与することを目的に行われています。

3年ぶりの交流事業となったこの日は、登別市と本市の小学生約30人が参加。2試合とも選手全員が全力プレーで健闘し、交流を楽しんでいました。



▲大きな声で堂々と選手宣誓をする両チームの選手